

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



1. マーケット・レート

			8月12日	8月13日	8月14日	8月15日	8月16日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2,2880	2,3080	2,3240	2,3420	2,3930	+0,0510
	USD/YEN	Spot	96,89	98,21	98,09	97,37	97,53	+0,1600
Swap	EUR/USD	Spot	1,3310	1,3266	1,3259	1,3352	1,3332	-0,0020
	BRL/YEN	Spot	42,33	42,44	42,19	41,59	40,76	-0,8300
Stock	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,34	1,31	1,31	1,42	1,59	+0,1737
		1Year(p.a.)	1,46	1,46	1,50	1,60	1,86	+0,2599
Real Interest	6MTH(p.a.)		9,03	9,09	9,13	9,20	9,40	+0,2000
		1Year(p.a.)	9,46	9,57	9,66	9,69	9,95	+0,2608
Stock	Bovespa		50.299	50.601	50.896	50.908	51.539	+630,44
Bond	CDS Brazil 5y		186,03	181,00	183,50	183,50	202,59	+19,0900
	Global 40		119,000	119,000	118,500	118,500	118,650	+0,1500

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィcerまでお問い合わせ下さい。



2. 主要経済指標

3. 要人コメント

イベント FGV CPI IPC-S (8月15日)	予想 0.07%	実績 0.05%	前回 -0.02%	レアル安はブラジルの産業にとってポジティブである マンテガ伯財務相
-------------------------------	-------------	-------------	--------------	--------------------------------------

4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場は U\$1=R\$2.2690 で寄り付いた。
- 週初のレアルは大口の資金流入の噂から買いが優勢となり週間高値となる U\$1=R\$2.2640 を付けたが、その後一部で伯中銀のドル買い介入スタンスを試す動きが見られると、レアルは 2.28 台後半まで売り戻された。
- 翌 13 日には米 7 月の米小売売上高が 4 カ月連続増加となったことを受けて 9 月にも米金融緩和縮小が始まるとの観測が広がると、ドルが主要通貨に対して上昇、レアルはじりじりと 2.3000 を下抜け続落した。
- 週央にかけては大口の資金流出の噂が聞かれ、レアルは 2.31 台前半まで下落し、更に一部で伯中銀のドル買い介入スタンスを試す動きが見られるとレアルはじりじりと 2.32 台前半まで続落した。
- 翌 15 日には朝方に伯中銀によるドル売り介入が実施されレアル買いが一時見られるも、米新規失業保険申請件数が予想比良好な結果となったことを受けて米金融緩和縮小観測が強まり、ドルが対エマージング通貨で上昇、レアルは一気に 2.35 台前半まで下落した。
- 週末にかけては伯中銀によるドル売り介入が見られたがレアル売り圧力は弱まらず、2.35 台半ばまで続落した。更にマンテガ伯財務相が「レアル安はブラジルの産業にとってポジティブである」と発言したことによって当局がレアル安を容認するとの思惑が強まり、レアルは 4 年半振りの水準となる U\$1=R\$2.3960 (週間安値) を付け、結局 U\$1=R\$2.3930 で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
8/19	FIPE CPI-週次	Aug 15	0.01%	0.01%
8/19	IGP-M Inflation 2nd Preview	Aug	0.14%	0.24%
8/19	税収	Jul	94965M	85683M
8/19	Trade Balance Weekly	Aug 18	--	\$249M
8/21	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	Aug	0.15%	0.07%
8/21	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	Aug	6.14%	--
8/22	失業率	Jul	5.8%	6.0%
8/23	FGV消費者信頼感	Aug	--	108.3
8/23	FGV CPI IPC-S	Aug 22	--	0.05%
8/23	経常収支	Jul	-\$8350M	-\$3953M
8/23	対内直接投資	Jul	\$5200M	\$7170M

6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ：2.35—2.50

今週は特段材料に欠ける中、米緩和策縮小観測を巡ってドルが対主要通貨で大きく上昇し、中でもレアルは伯中銀によるドル売り介入が実施されながらも、投機筋と思しき売りが引き続き多く見られ、他のエマージング通貨や主要通貨と比べて大きく下落した。レアルは年初来安値を更新し4年半振りの水準まで下落した。ドル全面高に加えてブラジルのファンダメンタルズの悪化によるレアル売りが考えられ、市場ではレアル安を更に見込む意見が多く聞かれ、一部では年末にかけてレアルは2.50から2.70に達するとの予想を示すエコノミストも出始めている。伯中銀がドル売り介入を実施する一方、財務省はレアル安容認とも取れる姿勢を示す等、政府/当局の方針が不透明であることからブラジルに対する信任が低下している。来週は国内では失業率が注目されるが市場へのインパクトは限定的と思われ、海外の経済指標やイベントによる影響の方がインパクトが大きいであろう。中でも米FOMC議事録等の発表が控えており、米金融緩和に関する動向が注目される。市場参加者の夏休み入りで市場の流動性は低下おり、薄商いの中投機筋の次なるターゲットはリーマンショック時に記録した2.50近辺にある可能性があり、引き続き注意が必要であろう。